

! 初めての方は、必ず
施工講習を受けて下さい。
・施工前には、必ずこの
要領書をお読みください。

! 警告 取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、死亡
または重傷を受ける可能性と同時に物的損害の発生が
想定される場合。
! 注意 取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、中程
度の傷害や軽傷を受ける可能性、及び物的損害の発生が
想定される場合。

1 管保温材の切除

管に傷がつかないように注意し保温材を切り取ってください。

管のサイズ φ	切り取り 長さ(mm)
6.35	65~70
9.52	
12.7	
15.88	
19.05	85~90
22.22	
25.4	
28.58	90~95
31.75	
38.1	

! 注意
カッターナイフでの
背割れ方向の切り
取りは、縦傷により
リークする為禁止で
す。

2 管の切断

ローラーカッターを使用して直角に
切断してください。

! 変形防止の為、徐々に切り込んで
ください。

3 管の確認

①継手挿入部に傷・曲がり・扁平・熱劣化
がある場合は切除してください。
②内外面に異物が付着している場合は、
除去してください。

・管の曲がり、扁平の限度は継手に無理
なく奥まで差込みが出来る範囲です。
・既設管をご使用の際は、400番以上
の細い紙やすりで管表面をみがいて
酸化物を除去してください。

4 管の面取り

①外面取り：肉厚の半分程度。
②内面取り：内面のカエリを除去してください。

! 注意
・流量確保の為、内面取りは必ず行って下さい。
・外面取りが無い場合はパッキンを損傷し、リーク
します。

5 マーキング【この作業は重要です。必ず実施下さい。】

①側面の標線
型紙使用
②マーキングゲージ使用
【1本で全サイズに対応】別売品

管端を型紙の
端に合わせる。

①側面の標線型紙
②マーキングゲージ
③スケール
いずれかを使用して銅管に所定の位置へL字型に
標線を記入してください。

管のサイズ φ	標線の位置 =L(mm)
6.35	26.0
9.52	42.0
12.7	42.0
15.88	42.0
19.05	46.0
22.22	46.0
25.4	46.0
28.58	49.0
31.75	49.0
38.1	51.5

6 管の差込み

管の差し込みは、標線が隠れるまで継手の
奥まで差込んでください。

・管軸線がずれた接合は厳禁です。
・管を差し込みする前のナット締め込みは
厳禁です。

7 ナットの手締め

継手本体を掴み、ナットを矢印の方向に
手締めしてください。

! ナット手締めは、これ以上手締めが出来
ない所まで行ってください。

8 ナット締め込み

モンキーレンチ等で継手本体を固定し、ナットを矢印の方向に
緑色のインジケータが見えなくなり、トルクアップするまで
締め切ってください。

! 注意
ナットは戻り止めを乗
り超えるのと同程度の
トルクで締めてください。
過度な締め込みはしな
いでください。

! 警告
締め込み不足は脱管の
恐れがあり危険です。

9 確認

A：緑（蛍光塗料）のインジケータが見えないこと。
B：標線が確認でき、ナット端面から6mm以内に
有ること。

（標線の位置はマーキングゲージの
端部を図の様にナット端面に当てて
判定ができます。）

緑のインジケータが見えたと
締め込み不足です。増し締めしてください

差込み不足、又は標線
の記入誤りの可能性があります

10 気密試験

使用される機器メーカーの施工・管理マニュアルに
基づき実施して下さい。

11 保温処理

同梱包の専用保温材を必ず使用して下さい。

! 注意
◆ろう付けの熱により、継手内部のゴム材料を劣化させる恐れがあります。近傍で
溶接する場合は、200mm以上の距離を取り、濡れ雑巾などで継手部への熱伝
導を防止ください。
◆ペンダーによる曲げ傷が付いている部分は漏れが発生する恐れがあり使用できません。
◆呼びサイズ31.75と38.1のソケットには、緩み防止のロックリングが内蔵されて
います。施工後は、ナットを外す事が出来ませんので、ご注意ください。

施工要領の確認（禁止事項）

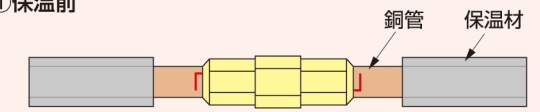
氏名 _____

年 月 日

	❌ 禁止事項	理由	自己チェック
I	保温材のカッターナイフでの背割り	銅管に傷を付けて漏れの恐れがある	
II	銅管の外面取りが無いこと	Oリングを傷付けて漏れの起きる恐れがある	
III	差込標線が無いまま銅管を差込むこと	差込み不足の異常が発見できず、漏れの起きる恐れがある	
IV	緑のインジケータが、見えている状態で放置すること	継手性能の不足により脱管する恐れがある	
V	ナットが締められているが差し込み標線が見えない状態で放置すること	標準施工されていないので、漏れや、脱管の恐れがある	
VI	継手を分解すること	継手性能が発揮しない状態となり脱管や漏れの恐れがある	
VII	再使用マニュアルを読まないで継手を再使用すること	おっぞんくんBのφ6～φ28は、当社HPの『おっぞんくんB再使用マニュアル』をご理解頂いた上、施工者様責任で実施ください	

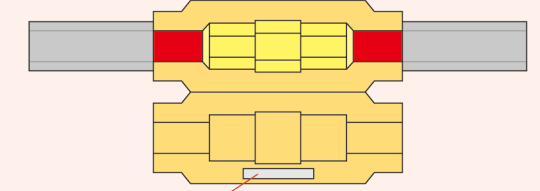
㊦ 保温処理

①保温前



②保温材のセット

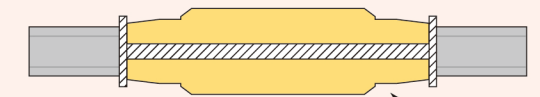
- 専用の保温材の全長に対し、管の保温材と隙間が空かないことを確認する。隙間がある場合は、別材を充填して埋める
- 保温材の仮止めテープの剥離紙を剥がし、セットする。



仮止めテープ



③継手保温材と管の保温材を保温テープやシートなどで固定し仕上げてください。



保温テープ、シートなどで合わせ目を固定する

ご注意：保温材の厚さは20mmです。
管の保温材が10mmでも、継手部は、安全の確保のため、専用の20mm保温材を必ず使用してください。